頑張れ、藤森大輔！

藤森との出会い

中１かそこらの少年。中３にお姉さん。飛び込み教室に来た。
将来大物になると思い、お母さんに TEL した。勉強が忙しく飛び込みに来たくても来れないという事だった。
「高校進学」
高校は米子東高に入学し吹奏楽部に入部。
「大学進学」
鳥取大学医学部に入学。
藤森は大学に進学後、競技を続けるつもりでいたのだろうか。１年時に門をたたいた。なんとか種目をそろえて、それに磨きをかけていた。

五県大会に出場

６月１１日、１２日米子東山プールで男子３M 飛び板飛び込み
この大会でインカレの標準点を突破することが目標であった。大学１年の時は種目をそろえること、あるいは基本的な体の締めなどを練習した。
今年いよいよ２年生である。

初めての？挫折

インカレの標準点２１０点を切ることができなかった。１９２点台
風呂で一人になって泣いていた。来年があると声をかけた。
あと１８点。この１８点を思う気持ち凄い大きい１８点だ。

これからの飛び込み競技社会が発展していくためには
藤森のような選手　　自分で目標を持ちチャレンジしていく
　　自分の人生のプランを持っている

藤森のような選手が働くようになって社会に増えたらどうなるか
社会の現状が上手くまわっていく。場合によっては寄付金などが集まる。
要するに、飛び込み競技を支援してくれる人材である。
　今までは飛び込み競技馬鹿、というか飛び込み競技だけという選手が多かった。これからの選手は人生のライフプランの中に飛び込み競技を位置づけることをするべきである。一度しかない人生である。もっと大切に、大事に生きてみよう。藤森を見ていてそう思ったのは自分だけなのだろうか。頑張れ、藤森大輔。　　（２０１１，９．２２）